

国立台南大学及び国立澎湖科技大学との 大学間交流協定の締結について

琉球大学大城肇学長は、9月1日国立台南大学を訪問し、同大学との大学間交流協定及び学生交流覚書を締結した。交流協定調印式では、黄宗顯学長、大城学長から挨拶があり、大学紹介に続いて、大学間交流協定が締結された。

国立台南大学は、1899年に台南師範学校として設立され、2004年に国立台南大学となった。現在は教育学部、人文社会学部、理工学部、環境生態学部、芸術学部、経営学部の6学部を有する総合大学で、約6,200名の学生が学んでいる。

国立台南大学は地域の発展やニーズにあわせた教育研究を積極的に行っており、自然環境や地域の特色を活かした教育研究等、本学との共通点も多いので、交流協定の締結により幅広い分野における共同研究や教育連携、学生交流が期待される。

翌9月2日には、国立澎湖科技大学を訪問し、同大学との大学間交流協定及び学生交流覚書を締結した。交流協定調印式には、王瑩瑋学長をはじめ、人文経営学部長、研究開発部長、関係教員が出席した。

台湾・澎湖島に位置する国立澎湖科技大学は、1995年に設立され、海洋資源工学部、観光レジャー学部、人文経営学部の3学部、約3,000名の学生を有する。亜熱帯島嶼地域の特色を活かした観光・レジャー、水産、自然エネルギーを3つの重点分野として教育研究を推進している。琉球大学とは、これまでも海洋科学分野の合同実習や共同研究等の交流実績があり、今後の幅広い分野での共同研究や学生交流の推進を目的として、交流協定の締結に至った。

国立台南大学、国立澎湖科技大学との国際交流協定は、学生や教職員の交流、共同研究、シンポジウム等の共同開催、学術資料の交換などの学術交流の促進を目的としたもので、併せて交換学生受入・派遣のための学生交流覚書も締結された。

黄学長、王学長からは、台湾と沖縄は交流の歴史が長く、共通する分野も多いので、大学間交流協定の締結によって、琉球大学との共同研究や学生の受入・派遣等交流が促進することを期待しているとの挨拶があった。

琉球大学は、台湾の教育・研究機関との学術連携の推進や留学生受入促進等を目的として、今年5月に沖縄県台北事務所内に琉球大学サテライトオフィスを開設した。台湾と沖縄は、気候や島嶼性においても多くの共通点があるので、サテライトオフィス開設や台湾の大学との交流協定締結を機会に、今後様々な分野での台湾との活発な研究交流や教育交流、並びに産学連携活動の推進が期待される。



国立台南大学 黄宗顯学長、琉球大学 大城肇学長

国立台南大学での協定調印式



国立澎湖科技大学 王瑩璋学長、
琉球大学 大城肇学長

国立澎湖科技大学での協定調印式

